



西宮市は、灘五郷に含まれる古くからの酒造地域で、江戸時代には酒積みの樽廻船の母港でもあった。

「市役所前線」は、その昔、酒造りの杜氏が往来したこの地の歴史背景にも配慮して、敷き瓦を舗装材に用いた「いぶし」色調と「土」の素材が基調となっている。床面だけでなく、既設コンクリート壁前面にもサビ系雑石を積み、立面においても色調や材質の統一を図り、ファニチャー類も石積みと同調したフレーム・色調で、日本的な景観にまとめており、寺の躰や大楠木の梢が映って、温かく味わいある表情を見せている。

データボード^①

- ① 兵庫県西宮市六湛寺町
- ② 延長200m、幅員20m
- ③ ファニチャー
- ④ 窯変敷き瓦、自然種石
- ⑤ 各種イベント